

午後Ⅱ試験

全問に共通して、設問に素直に答えている論述が多かった。また、問題文の引用で文字数を費やし、内容が薄くなってしまっている論述も少なかった。一方で、問題文に記載してある観点などを抜き出し、一般論と組み合わせただけの論述は引き続き散見された。問題文に記載した観点は例示である。自らが実際にシステムアーキテクトとして、検討し取り組んだことを具体的に論述してほしい。

問 1（業務プロセスの見直しにおける情報システムの活用について）では、業務プロセスの問題とその原因を明らかにした上で、情報システムをどのように活用したかという具体的な論述を期待した。多くの解答が、業務プロセスの問題を解消するための情報システムの活用を論述していた。一方で、問題の原因追究が不足している論述や、業務プロセスの問題ではなく情報システムの問題を主題にした論述も散見された。システムアーキテクトには、業務プロセスと情報システムの両面から対象業務システムを分析することが求められる。そのため、情報システムだけでなく、業務プロセスの面からの分析能力を高めてほしい。

問 2（データ交換を利用する情報システムの設計について）では、設計内容が具体的に論述されているものが多かった。データ交換を利用する情報システムの設計を実際に経験した受験者が、論述したことがうかがえる。システムアーキテクトとして、引き続き、様々な制約事項を考慮した情報システムの設計能力を高めてほしい。

問 3（組込みシステムの開発における機能分割について）では、組込みシステム開発の際に求められるアーキテクチャ設計時の適切な機能分割についての実践的な論述を期待した。おおむね、設問の趣旨を理解し、機能分割についてシステムアーキテクトの観点から適切に論述されていた。一方で、分割の対象とした機能の説明が曖昧なものや分割の必然性が読み取れないもの、単なる機能モジュールの選択や新機能の追加に留まっているものなど、不十分な論述も散見された。